

SDGs スタートアップ研究分科会
アドバンスコース第 1 回情報交換会（キックオフ）実施報告

2024 年 8 月 15 日
PMI 日本支部
SDGs スタートアップ研究分科会
アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る 7 月 20 日(土曜)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第 1 回情報交換会（キックオフ）を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要
2. アドバンスコースの運営について
3. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - b. 株式会社インフォテック・サーブ（iCD 活用で SDGs を達成）
 - c. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - d. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - e. ブルージョブズ株式会社（SDGs × 広報応援プロジェクト）

各項目の概要をお伝えします。

1. 2024 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続き SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施いたします。

「ベーシックコース」については本年も 10 月開始として、参加団体の募集を開始する予定です。

プログラムマネジメント

各団体の SDGs 事業は単一のプロジェクトではなく、複数のプロジェクトが連携することが多いので、プログラムマネジメントの手法で進めます。

依存関係のあるプロジェクト間のコミュニケーションや情報連携、リスクマネジメントなどの支援を行います。

3 アドバンスコース参加団体の情報交換

アドバンスコース情報交換会は現在アドバンスコースに参加されている 6 団体の活動状況の概要の共有と共通の課題や検討事項に対して情報を交換し、参加団体および PMI 日本支部アドバンスコース支援メンバーで検討することを目的としています。

今回のアドバンスコース情報交換会は、PMI 日本支部セミナールームにおいて対面で開催しました。昨年度まではオンライン開催のみでしたが、対面形式で初めてお会いする方々も多く、とても良いコミュニケーションをとることができました。

昨年度までの参加団体、株式会社カルティブ、インフォテック・サーブ株式会社、舞鶴工業高等専門学校&国立高等専門学校機構、有限会社ウイルパワー、ブルジョブズ株式会社の 5 団体に SDGs 取組み事例の紹介や近況報告を行っていただきました。ネクシア合同会社は現在休会中です。

今年度はプロジェクト支援を中心とする団体(1 団体)と、PMI メンバーとの定期的コミュニケーションを中心とする団体 (4 団体) として活動を支援していきます。

プロジェクト支援団体：

a. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム『river』）

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

・カルティブ社の紹介：

『river(リバー)』という地域課題プラットフォームで、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度を活用するためのサービス」を提供しています。

「企業と地方を繋ぎ、双方の課題解決への支援をすること」をミッションとし

「レジリエントで持続可能な社会ができていくこと」をビジョンとしています。

・最近の活動報告：

① Forbs、PR タイムズなどに、小坪氏が取り上げてもらえました。

② riverT シャツを新調しました。

③ 省庁の中での存在感が上がってきました。農林水産省、経済産業省、環境省、内閣府の省庁内での勉強会や省庁主催イベントでの登壇、官民連携、企業版ふるさと納税の活用機運醸成活動の展開など、農林水産省 HP にて事例集が公開されました。

<https://cpriver.jp/2024/07/12728/>

- ④ 連携企業が増えており、「サクシードの取り組み事例」、「佐賀未来創造基金」などの事例を紹介されました。

・今年の見聞について

2020年3月頃から当分科会員として活動していますが、初心に戻って、1年間かけて、フレームワークをゼロから作り直してみようと思います！

リーンキャンバスとロジックモデルから始めるということで、2024年7月20日時点で、自治体向けと、企業向けのリーンキャンバスを完成させました。

コミュニケーション支援団体（4団体）

b. 株式会社インフォテック・サーブ（代表：橋爪修氏）

（報告：株式会社インフォテック・サーブ 志村氏）

テーマは：iCD活用でSDGsを達成 主要なゴール 8:働きがいも経済成長も

- ・これまで、リーンキャンバスの見直し、IBMのデザイン思考も活用し、共感マップの作成、AsIsシナリオの作成を行い、わくわくする組織作りをゴールとして、ビジョンの策定『社員が生き生きと仕事に取り組むことで、個人の成長を通して会社を成長させたい』を行い、課題の分析を行い、アウトプットの定義／リーンキャンバス⇒ロジックモデル作成まで行ってきました。新しい価値の採掘として、チャレンジする社員のモチベーション向上、ワクワクする組織としてチャレンジングできる文化、達成の評価方法の検討を行い、ワクワクした組織チェックリスト_V1.0ドラフト作成まで完了しました。今後は、これらの成果物を活用し、サービス開始の予定です。

注：iCDとは：ITを利活用するビジネスに求められる業務（タスク）と、それを支えるIT人材の能力や素養（スキル）を体系化したもの

<https://www.ipa.go.jp/archive/jinzai/skill-standard/icd/about.html>

c. 舞鶴工業高等専門学校&国立高等専門学校機構

（報告：国立高等専門学校機構 内海康雄氏）

1)舞鶴高専の小規模河川水位監視システムのまとめ

- ・PMを活用した社会実装の例として、舞鶴高専は2018年から舞鶴市、KDDI、PMI日本支部ほかと協働し、4年を経て北近畿の20余の産学公金民報のステークホルダーが参加する地域プラットフォームを構築するため、PMI日本支部が開発したスタートアップ手法を協議しながら適用して、舞鶴市総合モニタリング情報配信システムの一部を社会実装しました。

2) アドバンスコース内のプロジェクト間の連携

国立高等専門学校機構で全国の高等専門学校51校で進められている、GEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）で地域課題解決の活動テーマ30~60件があり、株式

会社カルティブと高専研究プロジェクト GEAR5.0 の連携で企業版ふるさと納税の活用事例が現状 2 テーマあるとの報告がありました。

参考：

「Society 5.0 型未来技術人財」育成事業（GEAR 5.0/COMPASS 5.0）

<https://www.kosen-k.go.jp/nationwide/gear5.0-compass5-0>

3) ソーシャルイノベーションの書籍の整理

内海氏がこれまで読まれてきた 141 冊の社会課題、ソーシャルイノベーションに関連する書籍の分析結果で、ソーシャルイノベーション関連：80 冊、スタートアップ関連：53 冊、農林水産業関連：39 冊、経済関連：27 冊、防災・減災関連：13 冊、教育関連：9 冊などにおける、傾向分析と関連書籍の読み方の例について紹介がありました。

d. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

- ・プロジェクトテーマは、循環ビジネスの社会的役割の実施で、
- ・有限会社ウイルパワーはリユースショップの運営と中古品・不要品の輸出事業を行っており、リユースショップ「リユースマン」を岡山県倉敷市と香川県丸亀市で運営、また、中古品・不要品を開発途上国へ輸出しています。
- ・サーキュラーベース（資源循環基地）という、不用品・中古品を回収して資源循環させる場づくりを行っています。オークションなどにより価値を創出しています。
- ・香川県・岡山県廃棄業者やリユース業者などとの連携、不動産、建設関係など地域事業者へ PR、岡山県、倉敷市、香川県、高松市、丸亀市、善通寺市など行政にサーキュラー・ベース活用の提案を行い、オークションシステムの更新を行い、サーキュラー・ベースのオークション開始は、倉敷市の環境イベント「環境フェア 10 月 13 日（日）」で市民を対象に行なう予定とのことです。

e. ブルージュョブズ株式会社（代表：橋本滋氏）

(報告：ブルージュョブズ株式会社 代表：橋本滋氏)

- ・中小建設企業向け採用サポート事業として、「採用ランディングページ(LP)作成システムを開発・提供する」ということで、①ランディングページ (LP) からリスティング広告で「地域」「職種」でターゲットにした人にアプローチすることで、自社サイトの求人ページに誘導し、採用成功につなげる求人の方法を提供する。② LP は安価かつ簡易に作成できるクラウド型システムを提供する。LP は AI で原稿、画像などが作成でき、採用効果を高めるよう改善できるシステムにする。③ 求職者のニーズが高い社会貢献性を伝えられる工夫を盛り込むことを狙いとしているとのことです。



アドバンスコース第1回情報交換会(キックオフ) 参加者

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。
PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)